

結うすぽっと

第4号 2014年3月5日
発行 NPO法人はらまちクラブ
975-0071 南相馬市原町区深野字台畑15-2
Tel・Fax 0244-22-2564
Email: emoto@npoharamachiclub.jp
URL: http://npoharamachiclub.jp/

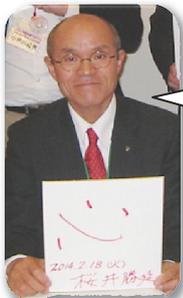
刺し子(さしこ)とは、手芸の一分野で、布地に糸で幾何学模様などの図柄を刺繍して縫い込むことで、保温、補強等のため木綿布に木綿糸で補強したものが始まりとされています。さしこを一針一針縫うようにこの地域医療応援団の輪が広がるようにという思いを込めてこの言葉をつけました。予防医療としてのスポーツ・文化活動の振興・こころいい第三の居場所が創出されるようみんなで力を合わせましょう！

平成25年度福島県相双地域医療再生支援フォローアップ事業

「被災地の地域医療フォーラム」が開催されました!!

福島県相双地域医療再生支援フォローアップ事業のフォーラムが、平成26年2月18日、ロイヤルホテル丸屋にて開催されました。参加者は77名、医療関係者、行政関係、一般の方々でにぎわった今回のフォーラムは、7名の講師をお招きし相双地域の医療の現状、そして課題などを語ってもらった。特に放射線の問題、震災後の避難者のストレスについての話が出たが、この問題を解決するためには、まず自分がすべきことをやり、そしてお互いで支え合えるような仕組みをつくるべきである、そこで家庭医という健康づくりのプロを増やし、相双地域を拠点としたネットワークづくりが大切になってくるだろう。

この地で生きる私たちは、まず正しい知識を持ちこれからも人とのつながりを大事にし、協力して相双地域の医療を再生していきましょう。



自分たちの問題に、どう答えを出さなければならないか、人間がどう生きていくべきか考えさせられている。

南相馬市長 桜井 勝延様

心：私の生き様



私達は、お互いがお互いで支え合って運動やおしゃべりしながらふれ合いを大切にしていくのが重要である。みんなで助け合うのが大切。

社会保障・人口問題研究所 第一室長 泉田 信行様

縁：ゆるくても繋がるように



3年たった今だからこそ、今後の健康を知るために、子どもも大人も正しい知識を持つよう、しっかり勉強していかなければならない。

南相馬市立総合病院 非常勤医 坪倉 正治様

自信：自分ができていることを自信を持ってやっていくように



被災地域をあらためてコミュニティデザインし、その再生にみんなの力が必要。地域医療も同様。みんなが“心ひとつに力を合わせる”こととみんなが元気であること。

NPO 法人はらまちクラブ 理事長 江本 節子

協：力を合わせたら1カ×3は二乗倍になり9、神様がおまけをくれて10になる。みんなで協力!



災害はいつ起きるかわからない。災害に備えなければならない。

南相馬市議会議長 議長 平田 武様

忍：今の現状は耐えることが必要 耐えたらいいことがある



南相馬市を拠点として家庭医を増やし、保健師、看護師、ケアマネジャー等とのネットワークをつくり、市民がどうしたら元気になるか考えていきたい。健康になるための大転換をしましょう!

県立医大 地域・家庭医療学 教授 葛西 龍樹様

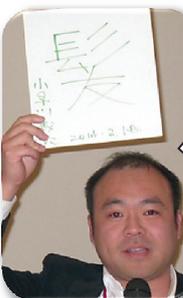
換：転換とは変わっていくこと 自分で換える・自分が変わる



これからも大きな災害があったときに精神科の患者さんを見捨てないでほしい。

おがたメンタルクリニック 院長 緒方 慎一様

嬉：楽しめることを共有したい



最新機器や情報管理など、機械に頼っているが、結局最後は人間が判断して手足を動かして操作する。情報は発信を受けた人がしっかりと受け止めることが大切。地域医療には土臭い江本理事長のような人が必要である。

DMAT 医師 小早川義貴様

髪：なくして見えた世界がある

福島県相双地域医療再生計画とは

平成21年から25年末までの5年間の間に医師確保対策や、緊急医療体制の構築を行い地域医療再生計画のフォローアップを行うと共に、住民協働で地域医療を守る取り組みを支援し、地域が一丸になって地域医療再生を推進します。

25年度の事業紹介

①お医者さんや看護師さん医療関係者などへの「感謝の標語」募集&表彰

最優秀作品と佳作は南相馬市子どもスポーツ遊夢パーティにて表彰しました。

最優秀作品 大甕小学校 1年 こわたはるかさん

「ありがとう いつも元気に してくれて」

募集要項

「お医者さんへの
感謝の標語募集」
(25年10~11月募集)

最優秀賞 1名

今後の事業の標語として使用
させていただきます。

佳作 10名

最優秀賞・佳作は12月8日
のパーティにて表彰します。
5.7.5 や 5.7.5.7.7 など感謝
を表現してください。

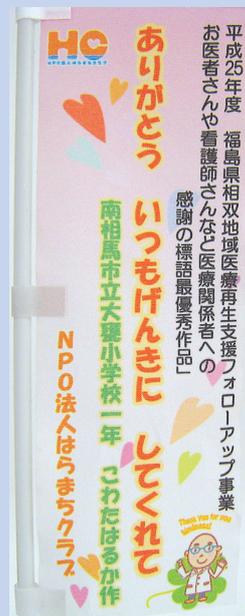


佳作作品

佐藤海癒さん・茂木颯馬さん・越田幸晟さん
進藤利治さん・和田美羽さん・伏見凌雅さん
山崎朱理さん・杉岡水喜さん・神野藤茜さん
佐藤ゆいなさん (以上10名)

啓蒙活動

※11・12月最優秀作品を卓上幟にして、
市町村を通じ医療機関などへ配布しました。
※クリアファイルにしたものは、小中学生に
配布し啓蒙します。



②相双12市町村地域医療担当者訪問、地域医療懇談実施

平成25年11月21・22・25日に相双12市町村を訪問
地域医療担当者と懇談。標語幟をお届け、感謝状を贈りました。



③被災地の地域医療フォーラム

1面の写真集

- 1、みなみそうま遊夢チアのオープニング
- 2、地域医療を1文字で表現すると・・・
- 3、フォーラム中!



④311からの高齢者の健康と生きがいづくりフォーラム

と き：平成26年2月27日 ところ：ロイヤルホテル丸屋
参加者：48名 家庭医って?を学び、みんなでワーク
ショップ!

家庭医とは人の話を聞くこと。人生は
人とのめぐりあいがあるから楽しい
「医療大転換」という本を出版したの
で読んでほしい。今までの病気の経験
の幅が自分の健康の指標となる。



県立医大 地域・
家庭医療学教授
葛西 龍樹先生

「常に前を向いて歩
く、前に進む」が私
のポリシーである。
(ご来賓の挨拶から)



南相馬市長
桜井勝延様

心ひとつに力をあわせて支えあ
い。マイナスは捨てて、夢と希
望を持ち帰りましょう!



NPO法人
はらまちクラブ
理事長江本節子



グループワークで
心ひとつに! になりました。



Let It Be !

あるがままを受け入れ
生きていきましょう!
前向きに。
たくさんのめぐりあいに
感謝しながら。